

MGC

2022年度 第3四半期
決算説明資料

 三菱ガス化学株式会社

2023年2月9日

証券コード
4182



1 | 2022年度 第3四半期 決算概要

2 | セグメント別業績概要

3 | 業績予想

はじめに「2022年度第3四半期決算概要」、続いて「セグメント別業績概要」、最後に「業績予想」という順でご説明いたします。

1 | 2022年度 第3四半期 決算概要

2 | セグメント別 業績概要

3 | 業績予想

2022年度 第3四半期 業績サマリー



- 原燃料価格や輸送費の上昇、電子材料の需要落ち込みなどが減益要因となったものの円安効果や、ポリアセタールの販売好調などもあり増収増益

単位:億円	2021年度 3Q累計	2022年度 3Q累計	増 減	
			金額	%
売上高	5,252	5,993	740	14.1
営業利益	448	454	5	1.1
(持分法利益)	(109)	(143)	(34)	-
経常利益	583	637	54	9.4
親会社株主に帰属する四半期純利益	393	445	51	13.1
一株当たり四半期純利益(円/株)	189.16	216.59		
為替レート(JPY/USD)	111	137		

(注) 本ページ以下に記載の数値は、金額表示は単位未満切り捨て、%表示・一株当たり指標・業績前提は単位未満四捨五入で表記しております。

はじめに、4ページをご覧ください。

2022年度第3四半期業績のサマリーを示しております。

原燃料価格や輸送費の上昇があったものの、円安効果やポリアセタールの販売好調などのプラス要因が上回り、

売上高は、対前年同期で14.1%増収の5,993億円、

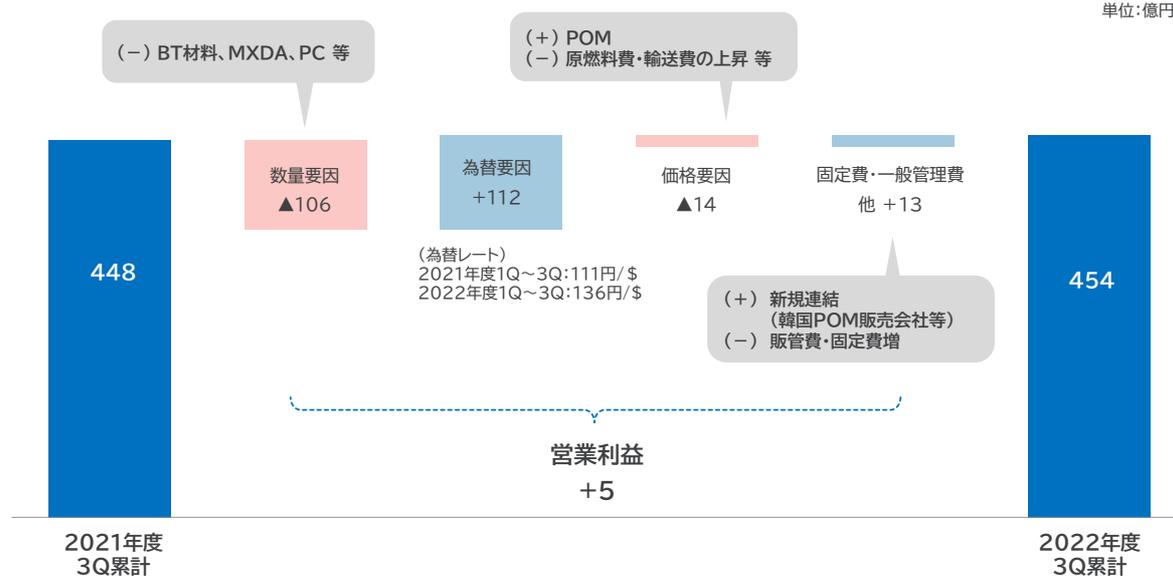
営業利益は、1.1%増益の454億円、

経常利益は、9.4%増益の637億円となりました。

2022年度 第3四半期 営業利益 増減要因(前年比)



単位:億円



三菱ガス化学株式会社

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC. | 5

5ページは2022年度第3四半期の営業利益の増減要因を、前年同期との比較で示しております。

数量要因は、BT材料やポリカーボネートの販売数量減や、一時的な装置トラブルによるMXDAの販売制限などから、106億円のマイナスとなりました。

為替要因は、ドルおよびその他通貨が円安に振れたことから、112億円のプラスとなりました。

価格要因は、販売価格への転嫁やポリアセタールの販売が好調であったものの、原燃料費や輸送費の上昇などにより、14億円のマイナスとなりました。

固定費・一般管理費等は、固定費が増加いたしました。プラス側として韓国ポリアセタール販売会社の新規連結効果があり、全体としては13億円のプラスとなりました。

1 | 2021年度 第3四半期 決算概要

2 | セグメント別 業績概要

3 | 業績予想

続いて、セグメント別業績概要をご説明します。

セグメント別 売上高・営業利益・経常利益



単位:億円	2021年度 3Q累計	2022年度 3Q累計	増減
売上高	5,252	5,993	740
基礎化学品	3,167	3,657	489
機能化学品	2,125	2,391	265
全社/調整	▲39	▲55	▲15
営業利益	448	454	5
基礎化学品	235	189	▲45
機能化学品	244	284	40
全社/調整	▲30	▲20	10
経常利益	583	637	54
基礎化学品	288	290	1
機能化学品	312	335	22
全社/調整	▲18	12	30

【参考】主要製品群(旧セグメント別)

単位:億円	2021年度 3Q累計	2022年度 3Q累計	増減
売上高	5,252	5,993	740
天然ガス系化学品	1,678	1,871	193
芳香族化学品	1,516	1,816	300
機能化学品	1,583	1,904	320
特殊機能材	542	487	▲54
全社/調整	▲67	▲86	▲19
営業利益	448	454	5
天然ガス系化学品	83	82	▲0
芳香族化学品	151	106	▲45
機能化学品	116	201	84
特殊機能材	126	82	▲44
全社/調整	▲29	▲19	10
経常利益	583	637	54
天然ガス系化学品	135	175	40
芳香族化学品	153	115	▲38
機能化学品	175	230	55
特殊機能材	137	104	▲33
全社/調整	▲17	12	30

(注)便宜的に過去のセグメントに準じて算出した参考値となります。

7ページは、セグメント別の売上高、営業利益、経常利益を示しております。詳細は次のページ以降でご説明しますが、左側のとおり、基礎化学品は増収、営業減益、経常増益、機能化学品は増収増益 となりました。

また、参考値になりますが、右側に主要製品群、旧セグメント別の損益も示しております。

芳香族化学品、特殊機能材が減益となりましたが、天然ガス系化学品経常増益、機能化学品は営業利益・経常利益共に増益となりました。

2022年度3Q実績

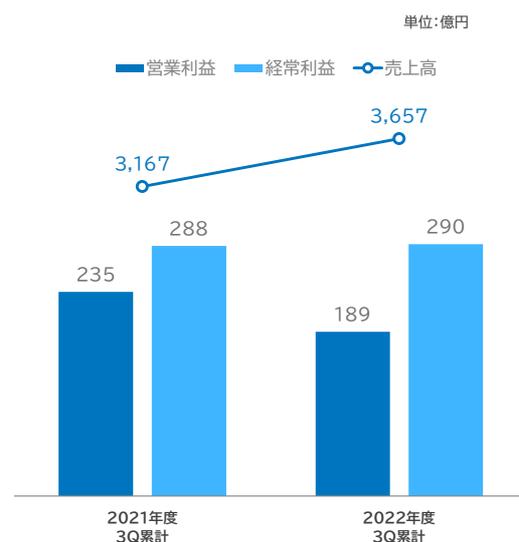
売上高:円安や、原燃料高を受けての販売価格改定などにより増収

営業利益:円安効果があったものの、原燃料価格や輸送費の上昇、MXDAの一時的な装置トラブルなどにより前年同期を下回る

持分法損益:メタノール市況は下落も、海外メタノール生産会社における繰延税金負債の取り崩しにより増益

- メタノール:市況は前年同期に比べ下落(21年度1Q~3Q 394ドル→22年度1Q~3Q 366ドル)も、円安効果もあり増収。持分法損益も増益
- メタノール・アンモニア系化学品:原燃料価格が上昇した中で採算是正を進めるも、ネオペンチルグリコールの市況が悪化したことにより、前年同期を下回る損益
- ハイパフォーマンスプロダクツ:芳香族アルデヒドの販売数量が増加したものの、MXDAの一時的な装置トラブルなどから減益
- キシレン分離/誘導品:原燃料価格の上昇などにより高純度イソフタル酸(PIA)の採算が悪化したことなどから減益
- 発泡プラスチック(JSP):原燃料価格等の上昇に対する製品価格改定時期の遅れなどにより、減益

三菱ガス化学株式会社



©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC. | 8

8ページ、基礎化学品事業についてご説明します。

売上高は、円安効果や、原燃料高を受けた販売価格改定などにより、増収となりました。

営業利益は、円安効果があったものの、原燃料費や輸送費の上昇、MXDAの一時的な装置トラブルなどにより前年同期を下回りました。

持分法損益は、メタノール市況は下落したものの、ベネズエラの生産子会社における繰延税金負債の取崩しなどから、増益となりました。

続いて、主要事業別にご説明します。

メタノールは、市況が前年同期に比べて下落したものの、円安効果もあり増収、持分法損益は増益となりました。

メタノール・アンモニア系化学品は、原料価格が上昇した中で、堅調な需要を背景とした採算是正などを進めましたが、ネオペンチルグリコールの市況の悪化などにより、前年同期を下回る損益となりました。

ハイパフォーマンスプロダクツは、芳香族アルデヒドの販売数量が増加したものの、MXDAの一時的な装置トラブルなどから減益となりました。

キシレン分離/誘導品は、原燃料価格の上昇などにより高純度イソフタル酸(PIA)の採算が悪化したことなどから減益となりました。

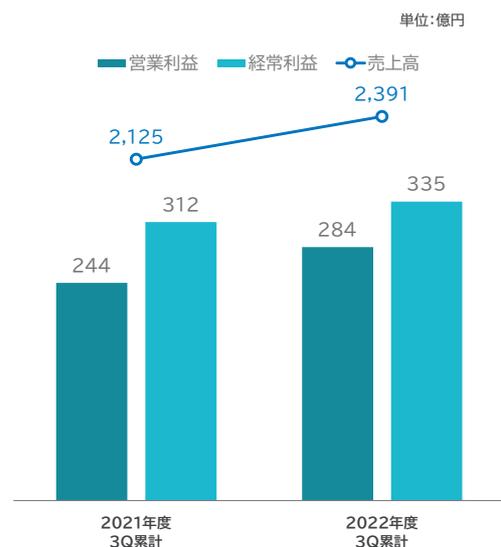
発泡プラスチック(JSP)は、原燃料価格等の上昇に対する製品価格改定時期の遅れなどにより、減益となりました。

2022年度3Q実績

売上高:円安効果に加え、ポリアセタールや無機化学品の販売数量増加等により増収

営業利益:ポリアセタールの増益などにより増益

- 無機化学品:半導体向け薬液の販売数量が増加したものの、輸送費や原燃料価格が上昇したことなどから減益
- エンジニアリングプラスチック:ポリカーボネート、ポリカーボネートシート・フィルムの販売数量が減少したものの、ポリアセタールの販売が好調に推移したほか、韓国ポリアセタール販売会社の新規連結化などもあり増益
- 光学材料:前年同期の顧客の在庫調整は解消したものの、光学樹脂ポリマーの主用途であるスマートフォンの需要が低調に推移したことなどから、前年同期並みの損益
- 電子材料:主力の半導体パッケージ用BT材料において、PC関連機器や家電向けなどの汎用材料の需要が落ち込んだことに加え、3Qにはスマートフォンやメモリ向け高機能材料の需要も減少したことなどから減益
- 脱酸素剤:海外向け販売が円安影響もあり食品分野を中心に堅調に推移したものの、原材料費や輸送費が上昇したことなどから、前年同期並みの損益



9ページ、機能化学品事業についてご説明します。

売上高は、円安効果や、ポリアセタールの販売好調などにより、増収となりました。

営業利益についても、電子材料関連の需要減少やポリカーボネートの販売減少などがありましたが、ポリアセタールの増益などにより、増益となりました。

主要事業別にご説明します。

無機化学品は、半導体向け薬液の販売数量が増加したものの、輸送費や原燃料価格が上昇したことなどから、減益となりました。

エンジニアリングプラスチックは、ポリカーボネート関連が販売数量の減少などにより下振れたものの、ポリアセタールの販売が好調に推移したほか、韓国ポリアセタール販売会社の新規連結化などもあり、大幅な増収増益となりました。

光学材料は、光学樹脂ポリマーの主用途であるスマートフォンの需要が低調に推移したことから、顧客の在庫調整の影響で落ち込みのあった前年同期並みの水準となりました。

電子材料は、主力の半導体パッケージ用BT材料において、PC関連機器や家電などで使用される汎用材料の需要が落ち込んだことに加え、第3四半期にはスマートフォンやメモリ向けの高機能材料の需要も減少したことなどから、減収減益となりました。

脱酸素剤は、海外向け販売が円安影響もあり食品分野を中心に堅調に推移しましたが、原材料費などが上昇し、前年同期並みの損益となりました。

1 | 2021年度 第3四半期 決算概要

2 | セグメント別 業績概要

3 | 業績予想

最後に、業績予想についてご説明します。

2022年度通期 業績予想



— 電子材料の販売数量減、ポリカーボネートの収益環境の悪化などにより、前回予想比で下振れ

単位:億円	2022年度 前回予想*	2022年度 今回予想	増 減		2021年度 実績
			金額	%	
売上高	8,100	7,900	▲200	▲2.5	7,056
営業利益	600	520	▲80	▲13.3	553
(持分法利益)	(169)	(173)	4	-	(148)
経常利益	800	720	▲80	▲10.0	741
親会社株主に帰属する当期純利益	570	500	▲70	▲12.3	482
*2022年11月8日公表					
一株当たり当期純利益(円/株)	277.63	243.54			232.15
R O E (%)	9.7	8.5			8.8
R O I C※ (%)	10.3	9.0			10.4
為替レート(JPY/USD)	137	135			112

※ROIC=経常利益/投下資本

11ページは2022年度通期 業績予想の概要を示しております。

売上高7,900億円、営業利益520億円、経常利益720億円を予想しております。

【基礎化学品】

- メタノール：中国などの需要停滞により、下期市況予想を350ドルへ修正(前回予想390ドル) (3Q 347ドル、4Q 355ドル)
- ハイパフォーマンスプロダクツ：欧米向けを中心に需要は下振れ。ただし3Qから4QにかけてはMXDA装置トラブル後の数量回復を見込む
※旧芳香族化学品セグメントは水島工場の大定修により、4Qにおいて修繕費の増加(3Q比で約20億円)を見込む(前回予想からは変更なし)

【機能化学品】

- 無機化学品：無機化学品全体の営業利益は前回予想並み。半導体薬液は3Q以降、需要の減速感はあるものの、4Qに原燃料・輸送費上昇分の価格転嫁等進展を見込む。
- エンジニアリングプラスチック：ポリアセタールは堅調を維持も、ポリカーボネートは全体市況が弱含み減益を予想
- 光学材料：光学樹脂ポリマーはスマートフォン需要全般の弱さが継続しており、前回予想並み。3Qは旧正月前の在庫取りもあり販売は堅調だったが、4Qはその反動もあり3Q比減益の見込み
- 電子材料：BT材料は、PCや家電向けなどの汎用材料に加え、スマートフォンやメモリ向けの低熱膨張材、高周波材においても需要が減少し、前回予想比で下振れ。4Qはスマートフォン新機種向けの生産開始により3Q比では若干の回復を見込む

■為替前提：1米ドル130円(前回予想比10円の円高)、1ユーロ140円(前回予想と同じ)
(為替感応度(USD、概算)：1円の円高(円安)で、営業利益6億円/年、経常利益5億円/年の減益(増益))

■原油価格前提：85ドル/bbl.(前回予想比15ドル/bbl.の下落)
(原油感応度(USD、概算)：1\$/bbl.の上昇(下落)で、1.5億円/年の減益(増益)、メタノールへの影響は含まず)

最後に12ページ、2022年度通期業績予想のポイントをご覧ください。

はじめに基礎化学品ですが、

メタノールについては、世界需要の約6割を占める中国などの需要の持ち直しが遅く、下期市況予想を前回予想の390ドルから350ドルへ修正しております。

ハイパフォーマンスプロダクツについては、欧米向けを中心に需要は下振れを想定しております。ただし3Qから4Qにかけては9月～10月に発生しましたMXDA装置トラブル後の数量回復を見込んでおります。

尚、前回予想からの変更はございませんが、旧芳香族セグメントは水島工場の大定修により、4Qにおいて修繕費の増加(3Q比で約20億円)を見込んでおります。

続いて、機能化学品ですが、

無機化学品は、半導体向け薬液などの営業利益は前回予想並みを想定しております。3Q以降で北米を中心に需要の減速感はあるものの、4Qには一部製品において原燃料・輸送費上昇分の価格転嫁等の進展を見込んでおります。

エンジニアリングプラスチックは、ポリアセタールは堅調を維持する見込みですが、ポリカーボネートは全体市況が弱含み、減益を予想しております。

光学材料は、スマートフォン需要全般の弱さが継続しており、前回予想並みとしております。3Qは旧正月前の在庫取りなどもあり販売増となりますが、4Qはその反動もあり3Q比減益の見込みです。

電子材料は、主力のBT材料において、PCや家電向けなどの汎用材料向けに加え、スマートフォンやメモリ向けの低熱膨張材や高周波材においても需要が減少し、前回予想比で下振れを見込みます。ただし、4Qはスマートフォン新機種向けの生産開始により、3Q比では若干の回復を予想しております。

なお、為替前提は、1ドル130円、1ユーロ140円としており、ドル・円については前回予想から10円の円高見通しです。円高効果による営業利益の押下げ影響は▲15億円程度と見込んでおります。

また、原油価格の前提は、前回予想より15ドル下落の1バレル85ドルの見通しです。原油安による営業利益の押し上げ影響は、+6億円程度と予想しております。

私からの説明は以上になります。

Appendix

セグメント別 連結 売上高・営業利益・経常利益推移



単位: 億円	2021年度(実績)			2022年度(実績/前回予想)*			2022年度(実績/今回予想)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	3,358	3,697	7,056	3,949	4,150	8,100	3,949	3,950	7,900
基礎化学品	2,009	2,244	4,253	2,363	2,563	4,926	2,363	2,431	4,795
機能化学品	1,375	1,479	2,855	1,618	1,619	3,238	1,618	1,555	3,174
全社/調整	▲26	▲25	▲52	▲33	▲32	▲65	▲33	▲36	▲69
営業利益	300	253	553	335	264	600	335	184	520
基礎化学品	158	98	257	144	64	209	144	45	190
機能化学品	159	176	336	203	219	423	203	156	360
全社/調整	▲18	▲21	▲40	▲13	▲19	▲32	▲13	▲17	▲30
経常利益	387	353	741	499	300	800	499	220	720
基礎化学品	191	109	300	208	123	332	208	114	323
機能化学品	207	246	454	253	202	455	253	153	406
全社/調整	▲11	▲2	▲13	37	▲25	11	37	▲46	▲9

2022年度 第3四半期 貸借対照表



単位:億円	2022年3月末	2022年12月末	増 減	単位:億円	2022年3月末	2022年12月末	増 減
流動資産	4,522	5,202	680	負債	2,977	3,859	881
現預金	1,020	1,204	183	買掛債務	923	1,073	149
売掛債権	1,765	1,967	201	有利子負債	1,176	1,741	565
棚卸資産	1,556	1,822	265	その他	877	1,044	166
その他	179	208	29				
固定資産	4,764	5,366	601	純資産	6,308	6,709	401
有形固定資産	2,763	3,096	332	株主資本	5,472	5,689	216
無形固定資産	112	121	9	その他包括利益累計額	215	360	145
投資その他の資産	1,887	2,147	260	非支配株主持分	621	660	39
資産合計	9,286	10,568	1,282	負債・純資産合計	9,286	10,568	1,282
				自己資本比率	61.2%	57.2%	

参考：各種指標（1）

単位:億円	2018	2019	2020	2021	2022(予)
設備投資額 [3Q累計]	392 [287]	423 [321]	402 [267]	547 [416]	680 [490]
減価償却費 [3Q累計]	274 [203]	295 [219]	306 [226]	319 [239]	330 [249]
研究開発費 [3Q累計]	186 [138]	196 [140]	199 [149]	210 [156]	235 [171]
年度末人員(人)	8,276	8,954	8,998	9,888	10,398
一株当たり当期純利益 (円/株)	257	101	173	232	243
ROA(総資産経常利益率) (%)	8.7	3.9	6.2	8.4	7.2
ROE(自己資本当期利益率) (%)	11.3	4.3	7.1	8.8	8.5
ROIC(投下資本利益率) (%)	10.9	4.9	7.7	10.4	9.0
一株当たり 配当金(円/株) [うち中間配当]	70.0 [35.0]	70.0 [35.0]	70.0 [35.0]	80.0※ [45.0※]	80.0 [40.0]

※記念配当10円を含む

参考：各種指標（2）



	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	4~12月実績	1~3月実績	4~12月実績	1~3月予想
為替(JPY/USD)	110	112	109	109	107	105	111	116	137	130
為替(JPY/EUR)	130	127	121	120	121	126	131	130	141	140
原油価格(Dubai) (US\$/bbl.)	73	65	64	56	37	52	72	96	97	85
メタノール (US\$/MT) アジアスポット平均価格	408	335	277	245	194	319	394	412	366	355
原料キシレン(US\$/MT)	845	730	705	640	420	560	780	975	1,040	895
ビスフェノールA (US\$/MT)*	1,600 ~1,900	1,200 ~1,800	1,000 ~1,450	1,050 ~1,350	900 ~1,450	1,400 ~3,300	2,100 ~3,700	2,200 ~2,450	1,250 ~2,200	1,250 ~1,500
ポリカーボネート (US\$/MT)*	2,700 ~3,800	2,100 ~2,800	1,900 ~2,250	1,650 ~2,000	1,500 ~2,150	2,100 ~4,000	2,650 ~4,050	2,650 ~3,050	1,800 ~2,900	1,850 ~2,300

*期間中の最小値および最大値を記載

感応度(概算)

為替(USD) : 1円の円高(円安)で、営業利益6億円/年、経常利益5億円/年の減益(増益)
 為替(EUR) : 1円の円高(円安)で、営業利益1億円/年、経常利益1億円/年の減益(増益)
 原油(Dubai) : \$1/bbl.の上昇(下落)で、1.5億円/年の減益(増益)、メタノールへの影響は含まず
 メタノール : メタノール市況\$1/MTの上昇(下落)で、持分法利益1億円/年の増益(減益)

参考:主要製品群(旧セグメント)別 連結 売上高・営業利益・経常利益推移



単位:億円	2021年度(実績)			2022年度(実績/前回予想)*			2022年度(実績/今回予想)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	3,358	3,697	7,056	3,949	4,150	8,100	3,949	3,950	7,900
天然ガス系化学品	1,049	1,213	2,262	1,194	1,368	2,563	1,194	1,276	2,470
芳香族化学品	976	1,051	2,028	1,190	1,213	2,403	1,190	1,176	2,366
機能化学品	1,023	1,118	2,141	1,261	1,295	2,557	1,261	1,297	2,559
特殊機能材	353	361	715	358	324	682	358	258	616
全社/調整	▲43	▲46	▲91	▲54	▲51	▲106	▲54	▲57	▲112
営業利益	300	253	553	335	264	600	335	184	520
天然ガス系化学品	54	43	97	65	34	100	65	26	91
芳香族化学品	104	55	160	79	30	109	79	19	98
機能化学品	78	95	174	129	151	281	129	140	270
特殊機能材	80	81	161	74	67	141	74	15	90
全社/調整	▲17	▲21	▲39	▲13	▲19	▲32	▲13	▲17	▲30
経常利益	387	353	741	499	300	800	499	220	720
天然ガス系化学品	85	54	140	121	97	219	121	95	217
芳香族化学品	105	55	160	87	25	113	87	18	106
機能化学品	120	155	276	164	131	296	164	129	294
特殊機能材	86	91	178	88	70	159	88	23	112
全社/調整	▲10	▲2	▲13	37	▲25	11	37	▲46	▲9

(注)便宜的に過去のセグメントに準じて算出した参考値となります。

*2022年11月8日公表

報告セグメント	主要製品群 (旧セグメント)	主要製品
基礎化学品	天然ガス系化学品	<ul style="list-style-type: none"> ・メタノール ・メタノール/アンモニア系化学品(アンモニア・アミン類、MMA系製品、ホルマリン・ポリオール系製品、等) ・エネルギー資源・環境事業
	芳香族化学品	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイパフォーマンスプロダクツ(MXDA、MXナイロン、芳香族アルデヒド等) ・キシレン分離/誘導品(メタキシレン、高純度イソフタル酸(PIA)等) ・発泡プラスチック事業(子会社JSP)
機能化学品	機能化学品	<ul style="list-style-type: none"> ・無機化学品(エレクトロニクスケミカルズ(超純過酸化水素、ハイブリッドケミカル)、過酸化水素等) ・エンジニアリングプラスチック(ポリカーボネート/シートフィルム、ポリアセタール等) ・光学材料(光学樹脂ポリマー、超高屈折レンズモノマー等)
	特殊機能材	<ul style="list-style-type: none"> ・電子材料(半導体パッケージ用BT材料等) ・脱酸素剤(エージレス®等)

見直しに関する注意事項

当資料に記載されている計画、目標等の将来に関する記述は、作成時点において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて判断したものであり、不確実性を内包するものです。実際の業績等は、様々な要因によりこうした将来に関する記述とは大きく異なる可能性があります。

本資料に関するお問い合わせ先

三菱ガス化学株式会社
CSR・IR部 IRグループ

TEL 03-3283-5041

URL <https://www.mgc.co.jp/>



IRメール配信サービス

適時開示やIRに関する最新情報について、
メールでお知らせいたします。ぜひご登録ください。

